

<p>a 学校教育目標</p>	<p>故郷を愛し、故郷のために尽くし、自ら伸びようとする児童の育成</p>	<p>b 経営理念 ミッション・ビジョン</p>	<p>【ミッション】(自校の使命)「知・徳・体」の基礎基本を身につけ、郷土の発展を願う児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像)・児童の主體的に学ぶ力を育成し、基礎学力を定着をさせる学校 ・きまりを尊重し、自他を大切にしながら健康でたくましく活動する児童を育成する学校 ・郷土のよさと課題を知り、その発展のために、地域に尽くす児童を育てる学校</p>
-----------------	---------------------------------------	------------------------------	--

評価計画				自己評価					改善方策	学校関係者評価				
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	9月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の向上	児童一人一人に合った、個別最適な学びを推進する	1 児童一人一人の実態を把握し、児童に自己選択、自己決定させながら、見通しをもって学習できる授業を行う。 2 ICT機器等を効果的に活用し、学びに組み込む。	・児童学習アンケートにおける児童の自己評価	肯定的評価80%以上	100%	100%	125%	A	○「見通しをもって学習することができていますか」というアンケートに対して82.6%が肯定的評価だった。一人一人の実態を把握し、児童実態に合った授業づくりや、児童が自己選択できる授業づくりを意識して行っている。 ○「学習にICT機器を活用していますか」というアンケートに対して86.5%が肯定的評価でほとんどの児童が学習にICTを活用することができている。また、教職員もデジタル教科書などを活用しながら授業づくりを行っている。	○めあての共有を必ず行い、見通しをもって学習を進めることができるようになる。 ○ICT機器の有効な活用方法についてICT支援員などと連携をとりながら授業づくりに生かしていく。	○			(三満) ・指導者の力量に疑問がある場面があるが、管理職が全力でサポートし、児童教師に寄り添っていた。 (川原) ・一人ひとりをよく見ているし、無理をせず児童の自己評価をよく理解していると思います。
	「学ぶ楽しさ・わかる喜び」を感じることのできる授業を行い、基礎学力を定着させる	1 教材研究を綿密に行い、児童実態に応じた教材の開発や発問の工夫を行う。 2 各児童に合った学習内容や方法を工夫するなど、授業改善を行う。	・単元末テストにおいて、期待値以上の得点をとった児童の割合	達成児童80%以上	72%	75%	94%	B	○単元末テストで期待値以上の得点をとった割合は75%だった。 ○児童実態に応じた手立てを考えて授業づくりを行った。また、全校ドリルタイムの実施や管理職と連携して個別指導を行い基礎学力の定着を図っている。	○毎週金曜日に研究部会を開き、授業改善について管理職・担任で協議を行う。 ○引き続き全校ドリルタイムの実施と管理職と連携した個別指導を行い、基礎学力の定着を図る。 ○R80の取組をさらに進め、学習課題を達成するための学び方を共有し、学ぶ楽しさや達成感を感じることができるようになる。	○			(中尾) ・4年生で行われている自由進度学習は、児童それぞれの能力を伸ばすのに良い方法だと思いますし、少人数だからこそ先生も個別指導ができるので、この学校に合っていると思います。
豊かな心と健やかな体の育成	他者の良さや頑張り気づき、お互いを尊重する雰囲気醸成する	1 児童主体による、島民や外部団体との交流活動等を計画的に実施する。 2 定期的に、お互いの良さや頑張りメッセージとして「見える化」し、認め合う活動を行う。	・他者の良さや頑張り月1つ以上見つけ紹介した児童の割合	達成児童80%	96%	100%	125%	A	○子育てサロン交流会など、学校と地域がつながる取組を定期的に行うことができた。 ○毎週水曜日、友達の「いいところみつけ」を児童会が主体となって行った。自主的に書いてポストに入れる児童も増え、学年を超えてお互いの努力や良さを認める雰囲気が生まれた。	○児童主体の活動を計画、実施、評価させることで、お互いの努力や良さを認め、自己肯定感を高めようとする。 ○自分や友達の良さを認め合い、自己肯定感や連帯感を高める雰囲気学校風土として今後も継続していく。	○			(三満) ・児童が互いに認め合い支え合う雰囲気十分育ってきており、伝統的といえるレベルにまで達してきている。 (川原) ・学年関係なく、他者の良いところをよく見ていると思います。
	自分の良さや興味・関心をもとに、自分の力を伸ばし、みんなのためになる活動を選択・決定させる。 2 定期的に、目標と取組状況について児童と話し合い、目標達成に向けて児童に見通しを持たせる。	1年間の目標を立て、継続的に努力した児童の割合(観察・アンケート)	達成児童80%	96%	100%	125%	A	○各学期ごとに目標を設定し、学期末等に自己評価や他者評価をしながらフィードバックしたことで、主体的に行動できる児童が増えた。 ○中・高学年の低学年への関わりなど、学年を超えた児童同士の関わりを教職員も認めるとともに、個々の伸びを教職員間で共有することができた。	○今後も目標に対しての取組状況を振り返らせることで、自己の努力や成長に気付かせたり、自己評価力を育成したりする。 ○巡回指導やSC等を活用し、児童への指導、支援を継続的に行うことで、児童の自己変容を今後も図っていく。	○			(中尾) ・他者から自分を肯定的に評価してもらえることは自分の地震に繋がっていくと思います。実際我が子も嬉しそうにメッセージを読んでいます。良い取り組みだと思います。	
信頼される学校	本校に対する島民等の関心の持続・向上	1 島内三地区に定期的に出向き、島民との交流活動を行う。 2 児童のメッセージ、学校生活の様子等を定期的に発信する。	・学校教育活動への満足度(保護者や町内会役員、学校関係者評価委員等へのアンケート)	肯定的評価90%以上	100%	100%	111%	A	○島民との交流を行っている。また子育てサロンとの交流も行えた。3月に向田地区のコミセン祭りにて太鼓の披露に行く予定。須ノ上地区への太鼓の披露はできなかった。 ○毎月、学校の様子を学校だよりと双鷺州で島民の皆様へ回覧してお知らせしたり、港やJAなど人の集まる場所に掲示したりすることができた。	○コミュニティスクール運営委員と協働しながら、地域と学校共に盛り上げる取組を計画実行していく。 ○島内の各団体と連携を取りながら、島民と児童が交流する場を設定していく。 ○島内放送や回覧を利用しながら学校の情報を発信していく。	○			(三満) ・児童が島民に親しみとリスペクトの感情を持っており、関係性の高まりと深まりを感じる。 (川原) ・三地区への行事の参加など良くされていると思います。 (中尾) ・地域へ足を運ぶことや地域と情報を共有することで、関係性の構築が積極的に行われていると思います。こうすることで地域から信頼される学校となり、更に、児童へも良いフィードバックを返してもらえることになるので、今もコミュニティスクールを通して積極的な活動を期待しています。
	働き方改革を推進し、働きやすい職場環境を構築する	1 行事等の内容を精選し、効率的な業務を推進する。 2 学校準衛生委員会等で各自の勤務時間外在時間を確認し、業務の見直しやサポート体制を構築する。	・学校全体の勤務時間外在時間平均値	・勤務時間外在時間平均値を、月45時間以下。	100%	100%	100%	A	○勤務時間外在時間平均値が、45時間を超えなかった割合は100%であった。今後も行事等の内容を精選しながら業務改善を進めていく。 ○月に1度の準衛生委員会勤務時間や業務負担のある教職員の心身の状態を確認しながらフォローし合える話し合いが行えた。	○ICTを活用した業務効率化をさらに推進する。 ○月に1度の準衛生委員会などを中心に、情報を共有し合い、風通しの良い職場を作っていく。	○			

【j:自己評価 評価】
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達)

【l:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。